

## 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 6 日作成)

|                              |  |                                |                               |
|------------------------------|--|--------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 力学原理・計算力学小委員会  |                                | 主 査 名：高島秀雄<br>就任年月：2003 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 構造委員会<br>応用力学運営委員会   |                                | 委員長名：和田 章<br>主 査 名：竹脇 出       |
| 設 置 期 間                      | 2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月  |                                |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | コンピュータの進展や解析理論の発展により構造解析法は飛躍的に進展しているが、構造設計の多様化するニーズに対して、新しい理論展開の活用には多くの制約がある。特に、コンピュータによる精緻な解析結果の妥当性を検証し、予備設計段階で、構造物の大局的な力学挙動の把握を簡易に把握出来る簡易解析法の援用は少ない。本小委員会では、構造解析技術における解析対象のモデル化と、それを支配する理論基盤を明確にして、構造実務設計で多様な解析手法を選択できる理論体系の位置付けを目的とする。また、新しい力学現象を見据えた力学原理に基づく統一的な計算力学のガイドラインを検討する |                                |                               |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：有<br>高島秀雄(金沢工大) 新宮清志(日本大) 小嶋英治(ジャパンパイル) 浜原正行(日本大) 木林長仁(竹中工務店) 松永裕之(摂南大) 森迫清貴(京都工芸繊維大) 松本慎也(広大) 西村督(金沢工大) 大木洋司(東京工大) 池田隆明(飛鳥建設) 竹脇出(京都大) 入江寿弘(日本大) 藤谷義信(広島国際大) 藤井大地(近大)   |                                |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | 構造設計における力学原理・計算力学 WG：<br>構造設計を実務としている設計者による構造解析の力学モデルの捕え方と、研究者との乖離を無くす為に、実務上の問題点と解決策について多様な領域の専門家による検討を実施する。   |                                |                               |
| 2005 年度予算                    | 120,000 円  | ホームページ公開の有無：無し<br>委員会 HP アドレス： |                               |

| 項 目                            | 自己評価  |            |
|--------------------------------|---|------------|
| 委員会開催数                         | 4 回(年度内計画を含む)   |            |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)      |   |            |
| 講習会                            |   |            |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)  |   |            |
| 大会研究集会                         | 1.(名称)建築構造設計者のための理<br>(資料名)建築構造設計者のための理   | 参加者数 291 名 |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等             |   |            |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 構造解析上のモデル化についての情報はほぼ達成された。<br>2. 構造設計における問題点とモデル化についての PD を実施し、問題点を指摘した。多くの参加者を確保できたので、ほぼ達成された。<br>3. 構造解析上のモデル化等に関する問題点の整理と情報発信は 50%の進捗度。 |            |
| 委員会活動の問題点・課題                   | 1. 特に無し   |            |